

# 我が社における保安活動(優良販売業者編)



株式会社巴商会 環境安全本部 本部長

小澤 正

## 1 はじめに

当社は、1950年に東京都大田区蒲田で発足して以来、ガスの専門商社として現在まで約70年の歴史を刻んできた。この間、主力商品である高圧ガスの公共性や危険性を念頭に置いて、品質・環境方針を定めつつ、環境保安活動を推進継続している。また、法令や社会規範の遵守姿勢はもとより、企業市民としての責任意識の共有の下で全社員が日々活動している。

## 2 会社の沿革

- 1950年 株巴商会設立
- 1973年 本社を南蒲田に移転
- 1975年 羽田にガスターミナル(GT)を開設
- 1999年 ISO9001の認証取得(技術本部)
- 2003年 ISO14000の認証取得
- 2010年 本社を蒲田本町に移転
- 2012年 横浜に国際物流拠点(横浜GT)開設
- 2017年 神戸に国際物流拠点(神戸GT)開設
- 2019年 事業所数 国内事業所56拠点・海外グループ会社12社

## 3 表彰履歴

2015年

- 高圧ガス保安協会経済産業大臣表彰  
(優良販売所：伊勢原(営))
- 高圧ガス保安協会会長表彰  
(優良事業所：ガスターミナル)
- 高圧ガス保安協会会長表彰  
(優良製造所：高崎ガスセンター)
- 関東高圧ガス保安団体連合会会長表彰  
(優良販売所：磯部(営))

2017年

- 高圧ガス保安協会会長表彰  
(優良販売所：多摩(営))

2018年

- 栃木県知事表彰  
(優良販売所：宇都宮(営))

## 4 保安に対する考え方

高圧ガスを取り扱う上で、保安の確保は生命線と言っても決して過言ではない。平時の安定供給と並んで、その「平時」を維持することが社会的使命の大きな柱の一つとしてきわめて重要である。したがって、当社が消費者に直接携わる段階から使用に至るすべての場面での安全を確保しなければならない。単

なる精神論にとどまらず、物理的にあるいは具体的にヒューマンエラーを回避すべく各種の対応を地道に積み上げることによって、裏付けの伴った安全意識を全社員に醸成することが、物心両面の万全な保安の確保につながる。そのためには、各販売拠点の安全監査による是正活動が重要であり、毎年現場を確認しリスク要因を洗い出し問題意識を共有することにより改善を推進させている。

各拠点では、保安を確保するためにさまざまな活動を実施しているが、以下に当社の活動の一部を紹介する。

## 5 保安活動

### (1) 資格制度によるスキル維持

現在のガス業界では、先端分野からの要求・要望に基づいてさまざまなガス種を取り扱う中で、ガス自体やその取扱い作業に高い危険性が多く伴うことはご承知のとおりである。

当社では、消費者の工場サイト等で容器交換その他の業務を行う場合には、常に一定水準以上のスキルをもってあたる体制を確保すべく、社内の安全管理部門が中心となって容器交換等の資格、配管工事監督者資格、NMR<sup>\*</sup>装置 He 充填員資格などの資格制度を定めており、毎年定期更新試験を行って、社員のスキル維持に努めている。運送面では、法令・条例の遵守はもちろんのこと、社内基準に定める運送員安全教育を受講修了した者のみが業務に携わっている。

また、高圧ガスの貯蔵施設や運送時におけるガス漏えい処置は、周辺地域の安全確保の意味からも一刻を争う性質を持ち、迅速な応

急処置技術が必要となる。このため、緊急処置訓練をガス販売の各拠点の共通訓練科目と位置づけ、毎年漏えい処置訓練を行っている。

### (2) 保安台帳の電子化による法令遵守

消費者と高圧ガスの販売取引を行う場合、販売・仕入台帳は当然ながら、それに加えて保安台帳が必須である。当社は2012年以降、販売拠点ごとの保安台帳を一望的に整備・管理するために、イントラネットによる電子保安台帳システムを構築した。本システムによって各拠点の台帳整備状況や許認可期限、販売ガス種等を一括で管理し、期限切れや申請漏れによる法令違反の防止対策を実施している。また、このシステムで消費者の保安情報を管理するほか、法定周知やSDS（Safety Data Sheet：安全データシート）等の更新情報の集中管理を行い、すべての消費者への適切な情報提供に努めている。

### (3) 自社保安設備の整備・充実

当社の販売拠点には、高圧ガス容器を保管する貯蔵設備、それに付帯する除害設備、消防法規に該当する危険物の貯蔵施設、その他防災設備を備えており、いかなる場合にも万全な体制を維持すべく管理をしてきた。しかし一方、経年劣化による老朽化への対応や消費者の多様なニーズに対応できる能力の構築も重要なテーマとして浮上している。そのために当社では、2015年から5年計画で保安設備の改善補修を重ね、来年を完結目処とする保全投資を実施している。

主なものとして、高圧ガス貯蔵施設の補修、除害設備の増強・補修、ガス検知器警報器の

※ NMR（Nuclear Magnetic Resonance：核磁気共鳴）

更新・増設，液化低温容器入替による老朽化対策，空気呼吸器の更新及びポンベの軽量化，緊急時の容器収納筒の増設配備，危険物設備の補修等の投資を進めてきた。これらの投資が直接的に売り上げに結び付くことはないとしても，消費者に対する当社の最大の商品である「安全・安心」の品質向上を続けていくために重要なプロセスと捉えている。

## 6 今後の抱負

以上，当社の保安活動の一端をご紹介した。事故発生原因の大部分が人為的なものや設備

の経年劣化であることから，物心両面の整備が必要なことは言うまでもないが，このほかに，予見不可能な災害事故への対応準備も日頃から行っておくことも重要な課題である。これも含めて保安全般についての緊張感と対応策を社員全員の身体に染みこませるために，今後とも手を緩めることなく保安の確保に取り組んでいく。その蓄積が消費者に役立つことにつながり，ひいては業界全体の信用・信頼の増大に資することとなるわけで，当社の存在意義，原点はそこにあると確信している。

小澤 正（おざわ ただし）



©MPC